

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年8月26日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870101813		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム すみれ	ユニット名	西館
所在地	〒310-0914 茨城県水戸市小吹町3135-1		
自己評価作成日	平成28年2月23日	評価結果 市町村受理日	平成28年9月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0870101813-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0870101813-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年3月31日	評価機関 決 済 日	平成28年8月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

認知症であっても家庭的な雰囲気の中で生活ができるよう、利用者と寄り添うことを大事に心がけています。  
利用者のかたと触れ合うコミュニケーションで共感し、職員、地域の方、ボランティアの方と共有し、利用者の方の不安軽減を図るとともに、職員自身も前向きな気持ちを持って楽しい生活を送れるよう支援していきます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

運営母体である協力医療機関からの送迎で、毎週金曜日に外来受診ができる体制となっているほか、受診が困難な利用者には月2回協力医療機関の医師による訪問診療があり、24時間連携体制が整っていたり、利用者が重度化した場合には寝台車で迎えに来てくれるなど、利用者や家族等の安心につながっている。  
管理者は協力医療機関への受診や事業所の行事で外出する際には、利用者に化粧をしてあげたり洋服を選ぶなど、利用者がお洒落を楽しむ機会を大切にしている。  
利用者の中で排泄が自立しているのは3人であるが、職員が毎日の陰部清拭や足浴と靴下交換を徹底して行っているため、事業所内は臭いが全くなく、おむつかぶれや褥瘡がある利用者も一人もいない。  
年2回行われる避難訓練には、毎回近隣住民の参加が得られているほか、つつじやさつきの盆栽を趣味とする近隣住民が事業所に届けて飾ってくれるなど、日頃より地域との交流を図っている。  
5年以上勤務継続している職員が多く、笑顔でチームワークも良好な職員のもと、利用者はいきいきと暮らしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	作り上げています。 各ユニットに掲示してあり、朝礼で読み上げ理念を共有しています。それに基づいて業務に取り組んでいる。	法人の「優しく、親切、丁寧に」の理念をもとに地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、玄関や各ユニットに掲示するとともに、朝礼時に唱和して共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	努めています。 推進委員会の一員、民生委員、地域の住人と交流し、協力して頂いています。行事、消防訓練等に参加して頂いています。	利用者と職員が散歩をした際に、近隣住民と会話を交わし、栗や季節の花のお裾分けがあったり、盆栽を玄関に飾ってくれるなど、日常的に交流している。 事業所主催の夏祭りやクリスマス会、有名な歌手のボランティア来訪時などに地域住民を招待したり、和太鼓や踊り、カラオケなどの地域ボランティアを受け入れるなど、利用者が地域住民と交流ができるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事にはボランティアの方にホーム側に訪問して頂き交流されています。月2回特別就労センター「ここからさん」から、実習生が来られ、指導員の方と一緒に触れ合っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回実施されています。状況報告し、そこで意見交換しサービス向上に生かしています。消防訓練、行事（運動会、新年会等）に参加して頂いています。年に二度家族の方全員に声かけし、多数の家族と委員が食事をしながら、意見交換されます。	運営推進会議は市職員や地域包括支援センター職員、地域住民、民生委員、利用者、家族等の代表などで2ヶ月に1回開催している。 管理者の提案で、雛祭りやクリスマス会などの行事を兼ねて開催することで、委員が利用者の様子を把握できるとともに、利用者の家族等と食事をしながら気軽に意見交換を行い、出た意見や要望をサービスの向上に活かせるよう努めている。 会議では行事報告や事業所の状況報告のほか、感染症の勉強会なども行っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課、介護保険課、生活福祉課、社協さんと日頃から連絡を取り、入居の件等で相談、報告しています。	管理者は利用者の状況や成年後見人制度利用の報告をするほか、生活保護受給者の手続きをするなどで市担当者を訪問している。 市担当者や地域包括支援センターから入居相談などあれば、積極的に受け入れる体制づくりに努めている。 年1回市より介護相談員が来訪し、利用者から話を聴いているほか、管理者は市からの案内で、グループホーム連絡協議会に出席して情報交換をするなど、日頃より協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防止に努めています。  緊急やむを得ない場合、（生命、又は身体が危険）家族の方に説明し、同意書を書いて頂いております。経過観察し、記録している。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するとともに、管理者が外部研修に参加した際は全職員に伝達し、職員は身体拘束の具体的な行為を理解しているが、マニュアルに言葉による拘束を記載するまでには至っていない。 現在転倒防止のために、やむを得ず車いすに安全ベルトを装着している利用者があるが、家族等に説明して同意を得ているほか、月1回全職員で話し合っ「経過観察記録」や「再検討記録」に残し、家族等に説明している。 利用者の安全確保のため、玄関は常に施錠しているが、解錠に向けての取り組みを行うまでには至っていない。	身体拘束排除に向けたマニュアルに「言葉の拘束」に関する内容を追加し、日頃何気なく言葉に出してしまう時に気付くよう、全職員で共有することを期待する。 玄関の施錠に関して、解錠日や時間を職員で話し合い、少しずつ取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めています。  研修や、新聞記事、ニュース等で学び、カンファレンスしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在・青年後見人1名 ・権利擁護5名  学ぶ機会はありませんが、社協との連絡はとっています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っています。  文書、口頭で説明し、家族の方の了承を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族、本人から要望等、相談は聞いてます。 家族、他者からの意見箱を設置しています。（玄関）	玄関に意見箱を設置しているほか、家族等の来訪時に話しをする時間を設けたり、遠方の家族等には電話で意見や要望を聴いている。 事業所の廊下に無記名のアンケートを掲示し、家族等が自由に記載できる体制になっているが、意見や要望を出された実績はない。	利用者や家族等が普段言いにくい意見や要望を積極的に把握する取り組みの方法として、無記名のアンケートを実施することを提案する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝ミーティングを行い、職員から出た、意見や提案を聞く様にしています。 食事会や、就業時間外も率直な意見交換をしている。 ホームだけで解決できない時は、上司に相談しています。	管理者は各ユニットの毎朝のミーティングや日常業務の合間に、職員から意見や提案を聞くなど、日頃より職員が相談し易い関係づくりに努めている。 事業所内だけで解決できない事案は、管理者が法人の本部会議で提案している。 職員の提案で、外出先を車いす利用者でも安全に移動できる場所に変更したり、レクリエーションの内容を利用者の能力の差が生じないものに変更するなど、職員の意見等を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めています。  職員同士のコミュニケーションは、良好です		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が交代で研修に参加し、その結果を報告書にまとめ閲覧し、話し合い共有して、サインをもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	取り組みしています。 月に一度のグループホーム会議に参加し、職員も他のグループホームに見学に行き、情報交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めています。 常に入居者の方に寄り添い、不安にさせない様、声かけし傾聴している職員はカンファレンスを行い、情報交換をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは、面会時や電話等で相談要望に耳を傾けている。 関係づくりに努めています。 (ケース記録に掲載)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応に努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方に寄り添い信頼関係を持ち、一人ひとりの行動観察をし、共に支えあう関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、お部屋でゆっくりティータイムをしている。 行事時（運動会、夏祭り等）には連絡し、参加していただいております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めています。  自由に面会に来られています。 手紙、年賀状届いています。 自室でティータイムしたりして、気分転換されています。	知人や家族等の来訪時には、居室でゆっくり話ができるようお茶やお菓子を出したり、ゲストルームや居室にて利用者と同じ昼食を提供し、楽しい時間を過ごせるよう配慮している。 管理者は利用者の馴染みの美容室の利用や、正月に利用者が自宅でゆっくりできるよう外泊や外出を家族等に依頼している。 職員は利用者が書いた手紙や年賀状の投函をするなど、馴染みの人との関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立せず、自由にユニットを行き来し、入居者同士関わり合っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援に努めています。  入院先、他施設に移動されても、職員交替で面会されている。その状況を全職員に報告している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は利用者と日々の関りの中でコミュニケーションを図り、情報を収集して一人ひとりの暮らしの希望や要望を記録し、全職で共有しています。家族の綿花維持に話を聞いています。	職員は日々の関わりの中で利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、記録に残し職員間で共有している。 攻撃的な言葉を発する利用者に対しては、ゆっくり話を聴いたり、家族等から対応について情報を得ている。 意志疎通が困難な利用者の場合は、表情や仕草から利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は、契約時に本人、家族らに聞いて いる。 利用者の方が生きる意欲と、できる限り社会性をもって、生活できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	どのような状態、状況なのか毎日ユニットごとに情報意見交換している。 家族の方の言動を確認している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、利用者や家族等の意見や要望を聞き、管理者や計画作成者、職員で話し合い利用者の意向にそって作成しています。	介護計画は利用者や家族等から意見や要望を聴き、職員間で話し合って計画作成担当者が作成している。 長期目標は6ヶ月毎、短期目標とモニタリングは3ヶ月毎に行い、見直しをしている。 利用者の心身の状態等に変化が生じた場合は、随時現状に即した計画に見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の特徴や変化をケース記録に記載しています。 職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に一度の駄菓子移動販売や、美容師が来るほか、訪問診療通院事業所の多機能性を活かした支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事ごとに地域のボランティア特別就労センターさんの実習生に協力していただき、暮らしを楽しめるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医(皮膚科、眼科)に受診されている。 管理者は、契約時に利用者や、家族にかかりつけ医を確認している。 週に一度外来受診、月2回訪問診療	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医を確認し、かかりつけ医への受診は基本的に家族等が対応となっている。 週1回運営母体の協力医療機関の送迎で、外来受診の支援をするとともに、受診結果はその日のうちに家族等に報告している。 外来受診が困難な利用者には、月2回の協力医療機関の訪問診療があるほか、必要に応じて訪問歯科診療が受けられるなど、適切な医療が受けられる体制が整っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で気づき等で電話をかけ相談し、受診、指示を受け、ケース記録に記載し華族の報告している。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したときに安心して治療ができるように病院と情報交換し、相談に努めている。症状が安定された時、医師の指示で退院され家族に報告しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化や、終末期の対応は、医師、看護師、家族と相談しています。	事業所は看取り介護は行わない方針で、契約時に利用者や家族等に説明して書面にて同意を得ている。 管理者は「医療連携体制の説明及び同意書」を基に、利用者や家族等に説明し、利用者が重度化した場合には、協力医療機関や介護事業所を紹介するなど、利用者や家族等が希望する支援をしているが、重度化した場合に関する職員の内部研修を行うまでには至っていない。	利用者が重度化した場合や今後看取り介護を行う体制に備え、職員の内部研修を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今のところ、訓練は行っていませんが、医師看護師に相談し、指示いただいております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いで消防訓練し、地域、家族の方の参加を得て実施しています。	消防署立ち会いの消防訓練や夜間想定を含めた避難訓練を地域住民の参加を得て年2回実施している。 訓練後は反省点や課題を記録に残し、次回に活かしている。 災害に備えて飲料水や米、缶詰、クラッカー、電池、懐中電灯、ラジオなどの一覧表を作成して備蓄している。 職員は約3日分の飲料水や保存食を各自で持参して保管するなど、職員一人ひとりが災害に備えている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の尊厳やプライバシーを大切にし、常に職員で話し合い利用者の羞恥心や、自尊心に配慮したケアに取り組んでいます。個人情報に関する書類は事務所の鍵のかかる所に保管している。	職員は利用者の人格やプライバシーを大切にし、利用者の羞恥心や自尊心に配慮したケアに努めている。 入浴は基本的に一人ずつとし、プライバシーを損ねない対応をしている。 プライバシー保護に関する内部研修を行うとともに、ミーティング時に日々のケアを振り返っている。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報の漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方が思いや希望を表せるように働きかけたり、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援していきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を傾聴し、自分のペースで自由に生活できるように支援していきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは、大事にして下さいと日頃ミーティングで話しています。外出、行事等では前日から好みの衣服を選んで頂いています。女性の方は行事の際は化粧します。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会や行事の際には、好きなメニューを聞いています。食事はスタッフ一緒に召し上がっています。自立されている方には、食前の準備食後のトレーの片づけ等をお願いしています。	同一法人の管理栄養士が作った献立に基づいて、食材が配送センターから届き、利用者の嗜好や状態に合わせて職員が調理している。 雛祭りや節句、クリスマスなどの行事食は、利用者の要望を聴いてお寿司や鰻、ケーキなどを提供し、食事が楽しめるよう配慮している。 職員は利用者と一緒に会話を楽しみながら同じ食事を摂っており、利用者は下膳やテーブル拭き、食器洗いなど能力に応じた役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分摂取を記録し、共有し、一人ひとりの状態に応じた調理に配慮し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、一人ひとり口腔の状態や力に応じた支援をしています。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの力や、排泄パターンを活かしてさりげない誘導の声掛け、介助支援しています。 夜間でも利用者一人ひとりの排せつパターンを把握しています。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者の様子から声かけ誘導をし、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。 夜間でも利用者の排泄パターンに合わせてトイレやポータブルトイレでの排泄を促している。 利用者が失敗した場合は、さり気なく居室に誘導して交換している。 職員の排泄支援により、失禁回数が減った利用者がある。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分を取り、規則正しく食事出来るように支援していきます。適度な運動、出来るだけトイレでの自然排便を促す。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週二回、午前中 この日に入浴出来るように支援しています。出来ないときは、他のユニットで入って頂いています。	入浴は週2回午前中を基本としているが、利用者の希望にそって他のユニットで入浴ができるよう支援している。 季節に合わせて柚子湯や菖蒲湯を取り入れ、季節を感じながらゆっくり入浴ができるよう支援している。 入浴を拒む利用者は、職員が入るきっかけとなる言葉かけを工夫することで、入浴を受け入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠の状況の原因となるものを追及し、安眠出来るように支援しています。生活の過ごし方に工夫し不安、ストレスができない様、精神面のサポートをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服については把握している。一覧表にまとめ変更になった時もユニットで分けるよう、確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	声掛け、見守りする中で入浴の準備やスタッフと一緒に、洗濯物たたみをして頂いています。ダンスの中に整理整頓できる方もいますユニット合同でカラオケ大会する等、コミュニケーションを取りながら、気分転換しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人・家族の要望によって家族と話し合い出かれられる様、支援しています。（食事・墓参り等） 昨年は、グループに分かれて、ドライブに出かけました。	外出は年間計画を立てて、職員の手作り弁当を持参し、年4回車で大洗海岸や千波湖周辺、県庁などへ花見やドライブに出かけているほか、外食を楽しめるよう支援している。 管理者は利用者が外食や墓参りなど、家族等の協力を得て行けるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理方法は家族の方と話し合い決めていきます。（小遣い）ホーム側で預かっている方は、月一回の移動売店で買い物をスタッフと一緒にしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援しています。 家族の方から電話が入った時は、本人に代わっています。 子供さん、お孫さんからの手紙等は自室に飾ってあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでは、どの部屋も外からの光が自然に取り入られています。 季節の花をホームの外、居室、ホール、トイレ等に飾るなど（スタッフ全員で）入居者の方が居心地良く過ごせるよう工夫しています。	玄関には雛人形や利用者と職員が制作した「花咲か爺さん」の貼り絵、観葉植物などを飾り、季節感が味わえるよう工夫している。 居間兼食堂は十分な採光により明るく、居間や廊下には行事の写真や利用者が職員と一緒に制作した貼り絵、習字を飾り、温もりが感じられる空間となっている。 居間の一角に和室があり、利用者が自由に寛げるように配慮している。 浴室の脱衣所にはトイレを設置し、急な排泄時にも対応できるよう配慮されている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気の良い日は中庭にでます。ベンチを設置し楽しく談話され、コミュニケーションを取り入れています。部屋で気の合う方同士で御茶されています。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具、生活用品（鏡・時計食器等）を持ち込み、安心して過ごせるよう支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今のところ混乱はありません。不安や失敗を招く事の無いよう、工夫しています。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム すみれ

作成日 平成28年9月10日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束排除に向けたマニュアルに「言葉の拘束」に関する内容を追加		理念をもとに言葉の拘束は、毎日朝礼で伝え、共有しています。今後は言葉の拘束（心理的虐待）のマニュアルを作成します。	
2		玄関の施錠に関して、解錠日や時間を、スタッフで話し合い取り組むように		天気の良い日は解錠し外にイスを並べ、ラジオ体操したり、田んぼの稲を見たりして四季を感じ取っています。	
3	10	利用者やご家族等が、普段言いにくい意見や、要望を無記名のアンケートを実施する		玄関にアンケート等の意見箱を設置していますが、今後は郵送する等、取り組んでいきます。	
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。